

JAAF
MIE



三重陸協会報

第 9 号

一般財団法人
三重陸上競技協会

事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町 510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢内) TEL 0596-22-8890・FAX 0596-63-5337 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 田村憲久



6位になりました。

中学生に目を向けてみますと山田真大選手(三雲中)が110mYH、110mJHの両方の規格で日本中学新記録を更新しました。高校生に負けず、中学年代を大きく活気づけてくれました。新記録は更新したものの、岡山全日中、ジュニアオリピックとも惜しくも優勝を逃してしまいましたので、高校ではインターハイ優勝を目指して頑張っておほしいものです。

平成の時代が終わり、日本は大きく時代が変わろうとしています。多くの報道でも言われていますが、平成の時代は「災害の時代」と言われるように、多くの震災、豪雨災害が起りました。特に昨年は西日本豪雨、台風21号、胆振東部地震など大きな自然災害も起こり、全国各地で40℃を超える気温を観測する酷暑もありました。

さて、昨年三重県を中心に東海地方でインターハイが行われ、陸上競技に関しましては伊勢の新競技場での開催となりました。全国でも有数の設備を整えた競技場に、各地区の予選会を勝ち抜いてきた高校生たちが集い競技が行われました。選手、審判員、運営役員、補助員、観客の全員が一体となり、酷暑に負けない熱い戦いを繰り広げ、大成功を納めることができました。地元三重県選手の活躍もめざましく、優勝こそ逃しましたが12種目で入賞を果たし、都道府県対抗の得点では男子が第

6位になりました。中学生に目を向けてみますと山田真大選手(三雲中)が110mYH、110mJHの両方の規格で日本中学新記録を更新しました。高校生に負けず、中学年代を大きく活気づけてくれました。新記録は更新したものの、岡山全日中、ジュニアオリピックとも惜しくも優勝を逃してしまいましたので、高校ではインターハイ優勝を目指して頑張っておほしいものです。大人も負けてはいられません。三重県出身の世古和選手(CRANE)が陸上競技の花形100mで、日本選手権、全日本実業団、国体の3冠を果たしました。昨夏のアジア大会で4x100mRの日本代表として出場し、今後の活躍も期待されます。

三重県開催の全国大会が続きます。昨年のインターハイの成功をバネにし、2019年が新時代の幕開けにふさわしい飛躍の年になり、2020年全日中、2021年国体の成功へと導けるよう、選手、指導者の皆様の活躍を期待します。

今後益々の三重県の陸上競技の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

三重インターハイご苦勞様でした

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 二一



再来年度の三重国体(とこわか国体)も気を引き締めて運営に当たっていたら、間違いなく素晴らしい大会になる事と胸を張って言えます。どうもご苦勞様でした。

皆様のおかげで三重インターハイの大会運営も無事に終了することができました。高校生の日本一を決める大会を実施することが出来たことは、本県にとっても貴重な体験となりました。何より素晴らしい経験が出来ました。県によつては4月末からインターハイ予選が始まり、本番の全国大会が始まるまで3・4か月続く所もあります。インターハイを選手目線で運営して頂いた審判員のレベルの高さには敬意を払いたいと思います。私自身、これまで他県の色々な大会を見ましたが、ややもすれば大会運営に右往左往する所が多いのですが、何事もなく無事大会運営出来たのは、日頃から取り組んできた三重県の姿勢「選手のための大会」であることに他ならないと思います。三重と言う小さな県ですが、運営に、選手強化に他県から注目されてお

り、今大会の運営のすばらしさを称賛してくれています。来年度の全日中、

さて、2019年を迎え中学・高校・実業団の強化にまだまだ頑張らなければなりません。その一つとして、県外選手の獲得を鋭意実施しております。NTNを中心に、DENSO・AGF・ピアティン・三重県体育協会などの協力を得て短距離・長距離・跳躍・投擲に新しい選手が三重県の選手として登録されます。とこわか国体3年前として国体の中心選手になってくれるべく、頑張ってくれたいと思います。鹿児島国体から種目の変更がなされますが、その種目に合わせて補強しているため、すぐに結果を出せることはありませんが、注目して頂きたいと思っています。

国体までには多少時間があります。が、審判の方々にはルールをしっかり学んで頂き、来るべき全国大会に向けた研修に日々励んで、三重陸協を支えて頂きたいと思っております。よろしくお願ひします。

三重陸協会報

「毎日入賞 12種目 9校」

今回は何よりも8月に行われた全国高校総体について報告します。先日、全国都道府県男子駅伝(広島)の際、宮島口の中継所で大学の同級生が「競技場のレイアウトや運営方法が競技者の立場で考えられていて、大変気持ちよく無駄なく競技をすることができた。大変暑かったけれども、氷の販売を大会途中で安い値段で始めてくれたおかげで助かった。心温まる良い大会だった。」と話してくれました。福島県の委員長からは、「様々な取り組みの思いは参加者にきくと伝わると思いますが。」と書いた年賀状が届きました。記録的な猛暑の中で開催された「平成30年度全国高校総体」は新装なった伊勢市のスポーツの杜伊勢陸上競技場で8月2日から5日間開催されました。昭和48年度以来、45年ぶりのインターハイで県勢は男子4×100mRの四日市工、男子円盤投の鴨澤青海(宇治山田商)、男子ハンマー投の川合隆誠(三重)の3位入賞を筆頭に、4位(男子5000mW)、第5位(男子棒高跳・男子三段跳・男子円盤投・女子七種競技)、6位(女子砲丸投)、7位(男子100m・男子5000mW)、8位(女子やり投)の12種目、9校(四工・

山商・三重・上野・皇學館・近大高専・稲生・松商・四日市四郷)から入賞者が誕生しました。優勝者こそ出すことはできませんでしたが、毎日入賞者を輩出し、男子都道府県対抗では第6位になっています。今年度の全国高校総体における全競技の三重県の入賞数は「52」。陸上競技は入賞数の「23、1%」を占めました。全国総体出場者(東海総体突破者)は男女併せて20校63名。東海総体出場校数(県総体突破校)は、40校に上りました。競技成績では昭和48年度の7種目優勝、14種目入賞には及びませんでした。4校上回るとともに、当時と種目数の違いはあるとはいえ、全国総体出場校数(過去最高)、出場者数(過去二番目)は増加しており、三重県の陸上競技が幅広く普及・強化されていることを証明する形となりました。これも地元開催に向けて切磋琢磨していただいた皆様のおかげです。改めて御礼申し上げます。

もちろんのこと、伊勢市実行委員会をはじめとする多くの方々には多大なるお骨折りをいただきました。熱中症対策でも、迅速に的確に対応しつつ、精度の向上を重ね、大きな事故もなく大会を終えていただきました。関係者一人ひとりの「大会成功への思いと意気込み」が見事に花開いたと思います。地元業者を巻き込んだ物産展、高校生ブース、昨年度までの優勝者の紹介、厳かな雰囲気の表彰式、競技者本位の大会日程、オリジナルの効果音とアナウンスによる競技会運営の工夫など既成概念にとられない取り組みは多くの人の思いが結集して実を結びました。すべての皆様に敬意を表します。大会期間中、自らの責務を全うしてくれたガードマンの方々や、プロモーションビデオ制作、伊勢市の夜店・花火など長い期間をかけて関わっていただいた方々も忘れてはいけません。審判の皆様、酷暑の中、長時間の業務、ありがとうございます。日に日に上達していく姿に感銘を受けました。このインターハイを経験したことが大きな財産になり、この後の全日本中学陸上、国民体育大会につながることでしよう。本当にありがとうございます。以上、報告とさせていただきます。三重県高等学校体育連盟陸上競技部 委員長 向井 俊哉

各地区陸協報告

桑員陸協

平成30年度を振り返りますと、東員町スポーツ公園陸上競技場の公認廃止により当協会のメイン事業であった記録会等の開催ができなくなり、地区内チームに多大な迷惑をかけることとなりました。人口規模を考えると公認の陸上競技場は必要であり、東員町スポーツ公園陸上競技場の再整備及び桑名市総合運動公園の整備に向け、粘り強く要望をしていく方針です。

場できる選手の育成をしていく必要があり、地区陸協全体的に鑑みるとまだまだ強化できる部分があると考えています。陸上競技を知らない顧問の先生方が各校で一生懸命に取り組んでいる一方なかなか強化に結びつかないのが現状であり、合同練習会を通じて陸上競技の未経験の教員に対し指導方法を習熟させることにより質の濃い練習が可能になると考えられます。このことにより各校での競技力が向上すると期待されるため、合同練習会への参加について積極的に呼びかけていくつもりです。

東員町スポーツ公園陸上競技場は公認の陸上競技場として利用できませんが、器具が整備されていることから桑員地域の陸上競技の拠点として利用していくと共に、引き続き東員町スポーツ公園陸上競技場や桑名市総合運動公園の活用方法を検討していきたいと考えています。

各年代層においての選手強化が課題であり、そうしたなかで来年度においても合同練習会を前年度より倍に増やし、それぞれの世代で強化を目指し、来年開催の全中及び2020年開催三重国体においてホスト県となることから更なる強化をおこなっていきたく考えています。

今年開催された三重インターハイにおいて桑員地区内から桑名西高校、桑名工業高校から2名の選手が出場しました。地元開催のインターハイに出場したことは桑員陸上競技協会としても喜ばしい限りです。

また、少子化のなか一人でも多く陸上競技者を増やす為に、さまざまな取り組みを行っていきたくと思います。

三河陸協

また、全中、ジュニアオリンピックなどにも出場する選手が増え、今後も一人でも多く全国大会に出

1月に開催した三河小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました



全国の強豪伊勢に集う



第3位 男子ハンマー投 川合隆誠 (三重)



第3位 男子円盤投 鴨澤青海 (宇治山田商)



第5位 男子円盤投 三井康平 (稲生)



第5位 女子七種 100mH 藤田紗江 (松阪商)



第5位 男子棒高跳 田中悠貴 (皇學館)



第6位 女子砲丸投 床辺彩乃 (松阪商)



第7位 男子100m 山路康太郎 (四日市工)



第8位 女子やり投 松永莉穂 (四日市四郷)



第3位 男子4×100mR 四日市工



第4位 男子5000mW 村手光樹 (上野)



第5位 男子三段跳 伊藤陸 (近大高専)



第7位 男子5000mW 荒川尚輝 (上野)



た。ソフト面では、中学生、高校生を中心にして多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。地元三重県で開催された夏の全国高校総体においては、三河地区から5種目のべ11名の選手が参加し、男子4×100mRにおいて四日市工業高校が見事3位に入賞してくれました。また、男子100m・女子やり投においても選手がよくがんばり入賞を果たしました。全国定時制通信制大会においては、大橋学園高校の選手が男子三段跳優勝・走幅跳3位入賞と活躍してくれました。また、全国中学大会には4名の生徒が出場し健闘しました。冬の都道府県駅伝大会には、四日市工業高校・四日市商業高校から選手がメンバーに選出されて健闘しました。ハード面においては、念願のサブトラックが昨年7月にオープンし、大会等のウォーミングアップ場としての利用を中心に有効活用しています。一方、今年の7月からはメイン競技場の大改修が予定されています。2020年秋までは競技場が利用できなくなる関係から、サブトラックの開放を中心に対応を行う予定です。また、競技会については鈴鹿市のご協力もいただいて少数ではありますが実施を計画しています。なお、四日市中学校カーニバルについては今年も6月に開催を計画しています。非公認大会とはなりませんが、この大会で出した記録は県

中学通信大会の参加標準記録としては認めていただける運びとなりましたので、大いに活用していただきたいと思えます。今後とも四日市市のご理解・ご支援のもと陸上競技を愛好する方々に愛着を持っていただける施設になるよう取り組んでいきます。

三河地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校で陸上競技をしたくてもできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげで一定の成果をあげてきてくれました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいく所存です。また、小学校関係においては、県にお願いをしてキッズアスリート陸上教室の開催を計画しています。

四日市中央緑地陸上競技場においては、国体の開催に合わせて今後も改修工程が続きます。競技者の皆さんにはご不便をおかけすることになりますが、サブトラックの利用等工夫をこらしながら円滑な運営ができるように努めたいと存じます。

鈴鹿陸協

ブルートラックに改修されたAGF鈴鹿陸上競技場が4月にリニューアルオープンし、本年度も

この競技場から育った鈴鹿市出身の選手達が活躍してくれました。

2018年度の活躍に目を向けるとシニアの部では衛藤 昂選手(白子中)・鈴鹿高専・味の素AGF)が日本選手権を3連覇し、インドネシアで開催されたアジア大会に日本代表として出場しました。

3位と同記録の6位入賞で惜しくもメダル獲得はなりませんでしたが、2019年シーズンでは日本記録の更新とともにドーハで開催される世界選手権での活躍が期待されます。

高校生では地元三重県で開催された三重インターハイで稲生高校の三井 康平(2)選手が5位に入賞しました。また、白子中学から四日市工業高校に進学した西山 桐矢(1)選手と林 哉太(2)選手が400mRでそれぞれ第一走者、第二走者として地区大会から大活躍し、三重県高校新記録、東海高校新記録を樹立し、インターハイの舞台でも猛暑の中、見事3位に入賞しました。

福井国体でもそのまま三重県チームの第一走者、第二走者を勤め7位入賞に貢献しています。林選手は2年生ながら200mでは三重県歴代4位の記録を樹立しています。3人とも2年生以下なので2019年度のさらなる活躍が楽しみです。

中学生では、全日中に白子中学から男子100mで水本 琢斗(3)選手、創徳中学から砲丸投

で中松 暖弥(3)が出場しました。全国中学駅伝には男女ともアベック優勝で白子中学が出場しました。女子は昨年に続き2連覇です。指導者の角谷先生は前任の神戸中学校でも男女の駅伝でアベック優勝しており、その指導力の高さには定評があります。

また、長距離に関しては鈴鹿市内の強化も順調に進んでおり、県大会では男女ともに多数の入賞者を輩出し、都道府県駅伝では男子2区に白子中学の倉本 晃羽(2)選手、6区に平野野中学の高橋 颯真(3)選手、女子では8区に創徳中学の早川 花(3)選手が選出され、全国大会の場で活躍してくれました。

これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのためものと深く感謝いたしております。特にAGF鈴鹿株式会社様には強化選手の確保だけではなく、小学生大会地区予選時に参加者全員にTシャツのご提供、通信大会では東海大会に進んだ中学生選手全員にTシャツ、顧問にはポロシャツをご提供いただき、選手共々チーム鈴鹿として大変モチベーションを上げることが出来ました。普段の地区の大会でも様々なイベントでサポートしていただき、ドリンクコーナーを設けていただくことで夏場の熱中症の軽減につながり、大変な貢献をいただいています。

新年度も鈴鹿陸協発展のために

皆様の力を賜りますようどうぞ宜しくお願いいたします。

旧東海道、宿場町の面影を残す歴史街道を走る第27回「かめやま」江戸の道」シティマラソン大会」は1月13日(日)市内外から1839名の参加をいただき開催しました。ゲストには2016年リオ五輪、2017年ロンドン世界陸上に続き2018年インドネシアのアジア大会男子走高跳に出場されたAGF鈴鹿(株)の「衛藤 昂」選手、招待選手には市内出身で活躍してい

る東京大学大学院「金崎 舜」選手、明治大学の「樋口大介」選手、神戸学院大学「平山璃奈」選手をお迎えしました。市内出身の落語家「林家菊丸」さんもサプライズで駆けつけていただき、開閉会式もおおいに盛り上がりました。今年も恵まれて多くの観客も駆けつけ、ゲストや招待選手の姿を身近に見て感動を思い起こし、子どもたちは将来の夢をふくらませていました。昨年のアンケートを参考に年齢カテゴリーを見直すなど、さらに多くの皆様から愛される大会として創意工夫を心掛けています。近年、健康志向の高まりにより市民ランナーも増加しており、本大会ジョギングの部の参加者も増加傾向です。生涯スポーツ推進の一つとしてこのシティマラソンを更に発展させていきたいと考えています。

競技会では、全国高校駅伝女子や都道府県対抗女子駅伝に亀山中部出身、津商業高校の「久木佑菜」選手が活躍してくれていま

亀山陸協



[シティマラソン：ゲスト、招待選手の皆さん]



[シティマラソン：1.5km小学生女子の部スタート]

ご協賛をいただいた企業

- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- ぎゅーとら
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマー・ジャパン
- 岐阜経済大学
- 皇學館大学
- AGF 鈴鹿株式会社
- 日本体育施設
- ミズノ株式会社
- みどりクリニック

(敬称略)

日本陸上競技連盟栄章

福井国体期間中、2017年度優秀指導者等の表彰が行われました。

- ◇ 優秀指導者 久保 幸弘 (神戸高校)
- ◇ 優秀競技者 伊藤 エリカ (神戸高校)
- ◇ 優秀指導者 東 一郎 (玉城中学校)
- ◇ 優秀競技者 野呂 仁人 (玉城中学校)

また、「美し国三重市町対抗駅伝」で亀山市は昨年も入賞を逃しましたが、今年こそ入賞はもちろん過去最高順位を目指して出場しました。

小さな協会ですがシティマラソン大会の他に市内小学生の陸上競技会、スポーツ少年団の駅伝大会、市内の駅伝大会等を開催、運営しています。2月10日に開催した亀山市駅伝競走大会は今年で第65回となり歴史ある大会です。35チームの参加があり盛大に開催できました。これらの行事も地元亀山高校の生徒や先生方を始め各団体の指導者及び地域の方々にお手伝いをいただいで運営できており感謝

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成30年度を振り返ると、全国大会で植松直紀さん(スズキ浜松AC)、日本選手権男子ハンマー投)、成岡大輝さん(東洋大)、日本学生個人選手権男子10000mW)、村木亮太さん(九州共立大)、日本学生個人選手権男子ハンマー投)、川合隆誠さん(三重高)、全国高校総体男子ハンマー投)、三井康平さん(稲生高)、全国高校総体男子円盤投)、茂山千尋さん(国士舘クラブ)、国体成年女子砲丸投)が入賞するなど、

津陸協

津市および津市出身の選手が活躍してくれました。

また、駅伝では津商業高校が4年連続で全国高校駅伝大会に出場しました。都大路出場という目標にぶれることなく突き進んだ努力の賜物と考えます。

本年9月にはMGCが開催されます。岩出玲亜さん(ドーム、一志中出身)が、MGCにチャレンジします。MGCで快走して、三重県から野口みずきさんに続いてオリンピックマラソン代表になるよう、全力で応援したいと思えます。

津地区では、29年度から市内の中学校が『みんなで強くなろう!』をスローガンとして、ときどき合同練習をしています。この取り組みが、津地区での陸上競技の普及・強化につながれば...と思っています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、30年度も鈴鹿、三河、松阪、伊勢度会など多くの地区陸協様から暖かいご配慮をいただく中で、大会や記録会を開催させていただきますました。心よりお礼申し上げます。

津市へ競技場新設の要望をさらに粘り強く継続して行い、東京オリンピック・三重全中・三重国体に向けて、小中高の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていく所存です。

松阪地区陸協

松阪地区陸協は規模が小さく、審判員等も決して人数が多いわけではありませんが、各学校・団体の方々のご協力により今年度も多くの活動の実施や運営を行うことができました。しかし9月30日に予定しておりました、第13回松阪陸上競技選手権大会兼第9回松阪市体育協会長杯小学生リレー大会は大型台風の上陸により残念ながら中止となり、多くの関係者ならびに選手の方々には大変ご迷惑をお掛けしました。

今年度も各学校・団体の指導者の方々のご尽力により、多くの成果をあげることができました。小学生チームの活動もさらに盛んになっております。11月25日(日)には三重高校の選手に協力をいただき小学生陸上教室を開催することができました。160名の参加があり、今後の松阪地区の陸上競技をさらに盛り上げてくれることが期待できます。また、中学生においても全国中学記録の樹立など素晴らしい活躍をみせてくれました。

さらに、地元三重で開催された全国高校総体においては三重高校や松阪商業高校などを中心に多数の選手が出場し、入賞を果たすなど大きな成果を残してくれました。数年前から松阪地区の小学校・中学校・高等学校の全体の競技レベルが向上していることが、結果

となって現われたものであると感じています。小学生と中学生だけでなく高校生も連携し、さらなる競技レベルの向上を目指していきたいと考えています。

今年度は山田真大選手(三雲中)の日本中学記録樹立、三雲中の4×100mR(水谷・大川・山田・山田・瀬谷)、同じく三雲中4×200mR(水谷・大川・山田・瀬谷)の県中学記録樹立がありました。全国大会では川合隆誠選手(三重高)・中山実優選手(三重高)・藤床辺彩乃選手(松阪商業高)・藤田紗江選手(松阪商業高)・山田真大選手(三雲中)・橋爪蒼葉選手(多気中)が入賞し、活躍が目立ちました。地元の高校生の活躍や、元気の活動が地元の新聞などに大きく取り上げていただくことも多く、中学生や小学生の選手や指導者のやる気をさらに増大させているように感じています。今後

も松阪地区の陸上競技の普及をすすめる、さらなる強化に努めていきたいと思えます。

伊勢度会陸協

伊勢市の県営競技場のスタンドいっぱいのお客様!「フレ〜フレ〜」の音がこだまします!そんな競技会が伊勢には存在します。それが「伊勢市中学校連合陸上競技大会」。伊勢市の全中学生が一堂に会し、競技者と応援団に分かれ

て繰り広げられる競技会。熱のこもった応援を受け、競技する方も気合いが入り、「この大会がシューズベストだった」という人もいたのではないのでしょうか?この大会の素晴らしいところは選手だけでなく、応援に来てくれた生徒の皆さんが本当に一生懸命に自分たちの仲間を応援してくれるところ

です。競技の合間には各中学校同士のエール交換もあり、その度に「ありがと〜〜〜」と言う声が返ってきます。選手はもちろん、応援団として参加してくれた皆さんも様々な経験をし、成長していつてくれていることでしょう。

現在は6月に「春季大会」と合わせた形で行われていますが、元々は秋に行われる県大会の伊勢度会地区予選の更に前、伊勢市の予選会として発足したそうです。

それが伊勢度会地区予選のみになった後、この大会は伊勢市の全中学生が参加する「連合陸上」と名を変え9月に行われてきました。しかし、大会の過密化が問題になり、6月に春季大会と合わせで行われるようになりました。その間には市町村合併や週休2日制の導入による授業時間の確保の議論に伴い、何度か存続の危機もありましたが関係者のご尽力により

今日まで続く伝統行事です。競技場改修でスタンドがない補助競技場で行っていた間も各校の生徒会が中心となり大会を続け、競技場が完成した2018年度には再び

メイン競技場で市内全中学生が参加した大会が開催されました。昭和の時代は市内9校でバックスタウンドまでいっぱいになり、まさに超満員のスタンドでした。現在は生徒数の減少もありメインスタンドだけで全生徒が収容できるようになりましたが生徒達の熱気は昔と変わりなく熱い大会でした。このような競技会は日本全国見渡してもなかなかない大会だと思えます。スタンド上部に「保護者席」として一般観覧の座席も確保されていますので、ぜひ一度ご覧いただき、改めてスポーツの原点である陸上競技の素晴らしさに触れていただけたらと思います。平成も終わりを迎える今年、昭和から平成へと続いてきたこのような大会も次の時代へと引き継いでいかなければならないと強く感じています。

鳥羽志摩陸協

海くんが3位、皇學館高校の田中悠貴くんが5位に入賞しました。小学生でもいすゞU.Kの北尾心映さんが全国小学生交流大会5年生女子100mで2位に入賞(秋1に13秒17の三重県小学校新記録も樹立)するなど、どの世代においても好成绩、好記録を収めてくれました。

一つ一つの大会が選手皆さんの飛躍、喜びにつながっていくよう今後も大会運営に力を注いでいきたいと思っています。

平成30年度は、鳥羽志摩地区の選手育成に携わっていただいた皆様に感謝し、「陸上競技の普及」選手の手育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」を今まで以上に図っていくことを柱に、一人でも多くの選手がIH・全日中、国体で活躍できるように活動を進めてまいりました。

その中で、宇治山田商業高校の鴨澤君(文岡中出身)が地元開催のインターハイで上位入賞を果たすなど活躍がみられた年となりました。これらの活躍は、三重陸協の皆さまや顧問の先生方のご尽力があつてのことだと思いますが、市内各クラブチーム、小・中学校での指導も大きかったものと思えます。この場をお借りし、指導者

の皆様方にお礼申し上げます。さて、平成30年度の鳥羽志摩陸協の特微的な活動を3つ紹介させていただきます。

最初に28年度から実施している「出前陸上教室！」の開催です。地区内の小学校2校、志摩市の幼稚園2園を訪問し、児童や園児の皆さんに「走る・跳ぶ・投げる」ことの楽しさを昨年度以上に感じてもらったことができました。また、地区内の小学校より体育の授業の中に陸上競技の出前指導の時間（年数回程度）を導入していただくお話もいただいております、31年度は新たな試みができるのではないかと感じております。

次に、小学校教員の方を対象にした審判講習会・実技講習会の開催です。地域との連携も計りながら、陸上競技の楽しさを伝える活動ができました。また、志摩市・鳥羽市の小学校陸上記録会へ審判を派遣する事もできました。

最後に合同練習会の開催です。特に毎年恒例となった国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会につきましては、250名ほどの地区内外の選手（特に小学生チームの参加が過去最多）が参加し、盛大に実施する事ができました。

鳥羽志摩地区において、少子化の問題は他人事ではなく、児童・生徒数の減少に伴い小中学校の統廃合が完了し学校数も大きく減少しました。しかし、クラブチーム

に所属する小学生の人数は、5年程前と変わらないか若干の増加傾向にあります。これは、指導者の方々の努力の賜物であり、陸上競技への最初の窓口である、普及に力を入れてきたことが効果を発揮しているものと思えます。ただ、児童・生徒数はさらに減少の傾向にあり、今後、競技者が減少していつもおかしくない状況にあります。さらに、中学校では部活動

の時間短縮等の課題もあり、地区陸協としても中学校やクラブチームとの連携を密にし、バックアップ体制を構築していくことが必要と感じております。

平成31年度は、引き続き「陸上競技の普及」「選手育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」に加え、「現役指導者のスキルアップ」も合わせて活動を進めていきます。

伊賀陸協

伊賀市陸上競技協会では、本年度も審判登録人数が非常に少ないなかですが、地域の方々に支えられて、なんとか競技役員確保や協会運営の充実を図っています。毎年伊賀市にある小学校全体での協力を得て行われている平成30年度三重県陸上大会伊賀市予選会には、クラブチームを含め小学校区単位で400名余りの参加がありました。地区予選では県内でも参加人数トップクラスであり、この

大会が伊賀市の小学校に根付いている証拠だと感じております。県大会でもクラブチームや小学校単位でも多くの入賞者が出ました。なかでも小学生男子400mRでは、ゆめが丘RCが全国小学生交流大会にて3位入賞する輝かしい成績をおさめることができ、この全国の経験を活かしながら大きく成長していただきたいと願っています。

今年度地元で開催された全国高校総体では、伊賀白鳳高校の選手男子4名が1500m・5000m・3000mSC・5000m競歩、上野高校の選手男女3名が5000mWで全国大会に出場し活躍しました。なかでも上野高校の選手は男子5000mWで4位・7位と2名入賞され、国民体育大会でも少年男子5000mWで、6位入賞をはたし活躍されました。また高校駅伝では伊賀白鳳高校が15年連続30回目となる全国出場を決めました。伊賀白鳳高校出身の選手は、箱根駅伝や都道府県駅伝等でも活躍がめざましいです。

中学校においては、緑ヶ丘中の選手が110mHで全日本中学校陸上競技選手権大会に出場、B100mでは全国ジュニアオリピックに出場しました。今後、高校進学後の活躍も楽しみな逸材です。中学校10校中、陸上競技部がある学校が少なく、小学校で実績のある児童が中学進学後に陸上競

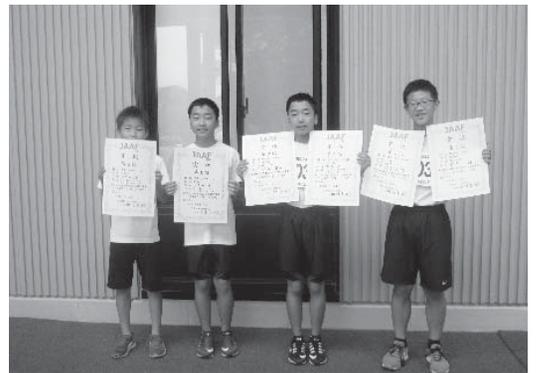
名張陸協

技を選択できない傾向にあり、クラブチームが強化・普及になんとかぎりぎり力を注いでいる状況になっていきます。地域過疎化が進み年々子どもたちの人口が減少していくなかで、陸上競技の選手の確保や、指導者の確保、市内全体として中学校の活性化を図り、来る全中や国体に臨んでいきたいと考えております。

名張市陸上競技場は、昨年度から全天候型トラックに改修されて4種公認グラウンドとなりました。名張市陸上競技協会の審判員の人数も42人と多くの皆さんが登録をいただきたき、皆様の協力のもと全国小学生大会や日本選手権大会、昨年度は、三重県で開催された全国高等学校陸上選手権大会、また、小学生では県大会、東海大会にたくさんの方が名張市から出場することができました。

名張市陸上競技協会は、今年度52年目を迎えます。一昨年度までは、土はがたがたで草も生えておりレーンの仕切りは釘が出て安全性に欠けるグラウンドでしたが見事に四種公認グラウンドなり老若男女の選手が新しくなった名張市陸上競技場（メイハンフィールド）で汗を流しています。

名張市小学生陸上競技教室も今年で25年目を迎えて年間24回の陸上教室を開催して生徒たちは、陸上競技の楽しさを学んでいます。また昨年度から設立された特定非営利活動法人アクティブ名張スポーツクラブに陸上を加えて「ぱりっこ」クラブが発足しました。5歳から高校生までが、火曜日と水曜日、選手コースとして金曜日、時間は5時から7時まで楽しく最新のドリルで汗を流しています。土曜日には、ぱりっこ教室の主催で各種講習会も開催しています。さらに、シニアの部では、月曜日と木曜日に近大高専と名張



市陸上競技場（メイハンフィールド）で夜の7時から9時まで練習をしています。夜は、ナイター

も使用できるので、午後9時まで練習を行うことができます。その成果が着実に実り昨年は、小学生の部で、竹下諒さん（小5の部100m5位）が東海大会に出場しました。リレーにおいても三重県小学生大会で、ぱりっこチームが5位に入賞することができました。また、男子800mにおいても松山唯人さんが3位に入賞しております。中学生の部では、永安正弥さんが中1の部で11秒78と三重県でランキング1位を獲得しました。横浜で行われる全国ジュニアオリンピック大会のリレーメンバーにも選ばれました。さらに高校生の部では、上野高校の井上香織さんと荒川尚輝さんが5000mWで松阪商業高校の豊田舞奈さんが走高跳、近大高専の伊藤陸さんが三段跳、走幅跳、本田基偉さんが走高跳でインターハイに出場しました。大学生では、保坂翔也さんが山口県で開催された全日本選手権大会において三段跳で8位に入賞しました。さらに、マスターズの部では、鳥取で行われた大会で名張市陸上競技協会会長の岩森正敏さんが70歳の部60m3位に入賞されマスターズ伊賀名張地区支部長の弓指さんが300mHで3位に入賞されました。また、女子の部では名張市理事長マスターズ会長の徳地さんや事務局の川合さんも80mHで1位と3位に入賞されました。

24歳以上の部では、1600m

Rで保坂正志さんと中西佑輔さんが日本記録を樹立されました。中西さんは、400mHの部でも長良川で行われた中部実業団で日本記録を樹立されました。名張市陸上教室では小学生と一緒に走り跳び、積極的にご指導してくださっています。

24歳以上の部では、1600m

尾鷲陸協

尾鷲市は過疎化地域であり、かつ、少子化も進み、陸上の競技人口も徐々に減りつつあります。しかしながら、尾鷲市の中では陸上競技は人気のある競技であり、多くの小学生が少年団に入団し、陸上競技を行っています。

24歳以上の部では、1600m

現在、尾鷲陸協で特に力を入れていることは、長距離選手の発掘です。尾鷲市は、学校教育や大会などで長距離に触れる機会がなく、小学生の長距離嫌いが目立ちます。それと同時に、本来持っている力に気付かないまま、陸上競技とは違う競技に進んでしまう学生も多

24歳以上の部では、1600m

くいると思います。そんな子供達の隠れた才能に気が付きを与え、引き出すことで尾鷲市の長距離も盛り上げようと、平成30年度から長距離選手権を計画し実行しました。この大会では、陸上未経験者が優勝する種目があるなど、狙い通りの成果のある大会になったと感じています。この大会をこれからも継続し、尾鷲市の子供達に少しでも長距離に触れる機会を与え、尾鷲市の陸上競技の発展に努めたいと思います。

24歳以上の部では、1600m

北牟婁陸協

極小規模の北牟婁陸協ですが、面白い話題がいくつもあります。一番大きな話題としては、「美し国三重市町対抗駅伝」においてエース山口祥太（富士通）の活躍などもあり、過去最高のタイムで過去最高順位タイの3位入賞を果たしたことです。今年度も町の部3位入賞を目指して頑張ります。

本年度、三重県インターハイに熊野市飛鳥中出身の前川純太君（松阪商業高校）が出場しました。小学生では、藤原健人（有馬小6年）が、県小学生選手権大会のジャベリックボール投げで61m19の県記録を樹立し、優勝しました。

今年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」「テーピング教室」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。陸上部のある中学校・高校が少ないことと、指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

二番目に大きな話題としては、紀北中2年生の濱田菜裕が砲丸投で力をつけてきており、現在1、2年生の東海ランキングで6番手程につけています。東紀州地域では、男女通じて砲丸投で全中に出場した者は過去にはいないので、最初の一人になれるように、精進を重ねているところです。

他には、三重IHでの活躍が期待された九嶋大雅（伊賀白鳳高校3年（紀北中学校出身））は、不

運もありうまく力を発揮できませんでしたが、全国高校駅伝2区走者として健闘しました。もう一人活躍が期待された濱口紀子（松阪商業高校2年（紀北中学校出身））は、残念ながら故障のために1シーズンを棒に振ってしまいました。最後のシーズンでの巻き返しに期待したいと思います。

熊野陸協

強化普及の面については、合同練習会の実施や県や他地区の練習会への積極的な参加、尾鷲高校の垣内元宏先生が指導する紀北ACの活動、小学校への出前授業の実施等に対応しているところです。

今年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」「テーピング教室」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。陸上部のある中学校・高校が少ないことと、指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

今年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」「テーピング教室」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。陸上部のある中学校・高校が少ないことと、指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

また、まだまだ小さな組織ではありませんが、少しずつ今できることを積み重ねて地域に貢献できるように努めていきたいと思

また、高校へ進学後も陸上競技を続ける選手が徐々に増えてきて

また、高校へ進学後も陸上競技を続ける選手が徐々に増えてきて

各委員会等報告

競技委員会

競技場が新装となり、わずか1年弱の競技場準備期間での全国高校総体の開催でした。

大会は、競技も熱く天候も暑い中、競技運営におきまして、各方面より高い評価をいただきました。これも、普段より高い意識で審判業務に取り組んでいたという結果であると感じました。全国大会にありがちな、「もたもた感」は全く無く、大変スムーズな進行でした。選手ファーストを謳い、選手が最高のパフォーマンスを発揮するための最高の舞台であったと思います。他県の役員の方から「こんなの、うちの県では無理です」とお褒め?の言葉もいただきました。また、伊勢市の実行委員会の皆さんが、連日日付が変わる夜遅くまで準備に奔走していただいたのも、成功の大きな要因であると思います。

毎年のようにルール変更があります。総会時にルール改正の講習会を実施いたしますので、ご理解と講習会に欠席されている方への周知をお願いします。

今後も、競技運営へのご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

強化委員会

本年度の福井国体はアジア大会に出場した世古和選手(クレイン)が成年女子100mで見事優勝。日本選手権、全日本実業団と合わせて3冠を達成しました。少年においては、本年度地元インターハイに出場した選手たちの成長を、非常に感じる結果でした。昨年度3名の入賞から、予想を上回る8名の入賞者を出し、大きく飛躍しました。地元三重でインターハイを開催していただき、選手と共にコーチ陣も成長できた成果と考えております。男子リレーにおきましては、全てU20の日本一若いメンバーで挑戦しました。予選、準決共に見事1位で通過をし、7位入賞を果たし、39秒台の好タイムを記録しました。天皇杯60・5点の第13位、皇后杯28点の第19位と

平成30年度国体・都道府県対抗駅伝報告

第73回 国民体育大会 10/5(金)~9(火) 福井県 県営陸上競技場 *はふるさと選手

Table with 2 columns of race results. Left column lists winners and their times (e.g., 優勝 成年女子100m 世古 和 (乗馬クラブクレイン) 12秒21(-2.8)). Right column lists other participants and their times (e.g., 6位 成年男子砲丸投 村上 輝 (国土舘クラブ) 16m92). Includes天皇杯 and 皇后杯 results at the bottom.

皇后盃 第37回 都道府県対抗女子駅伝 第33位 2時間24分18秒

天皇盃 第24回 都道府県対抗男子駅伝 第35位 2時間24分37秒

Table for 皇后盃 results. Includes header: 女子 平成31年1月13日 12時30分スタート 西京極陸上競技場発着. Summary: 総合 第33位 2時24分18秒. Staff: 監督 山本 顕 (宇治山田高), コーチ 中村 陵介 (デンソー), 田中 将吾 (平田野中). Race details table with columns: 区間, 距離, 名前, 所属, 記録, 区間, 通過.

Table for 天皇盃 results. Includes header: 男子 平成31年1月20日 12時30分スタート 広島市平和記念公園発着. Summary: 総合 第35位 2時間24分37秒. Staff: 監督 真内 明 (NTN), コーチ 山本 顕 (宇治山田高), 中武 隼一 (伊賀白鳳高). Race details table with columns: 区間, 距離, 名前, 所属, 記録, 区間, 通過.

健闘しました。

都道府県駅伝は男子35位、女子33位とチームとしては結果を出す事が出来ませんでした。そんな中、倉本晃羽選手（白子中）、澤井風月選手（嬉野中）の男女中学生コンビが区間17位、また成年の西山雄介選手（トヨタ自動車）が区間5位、藤田愛子選手（白鷗大）が8人抜き区間15位と健闘してくれました。

強化委員会としては三重国体に向けて成年、少年に分けて対策を進めています。成年は現有戦力の維持と強化、新戦力の獲得がメインです。少年では強化指定校を中心に本年度の成果を自信に

「預かった選手は絶対にもにする」という覚悟のもと責任を持って選手を育て、練習会等でチェックをする。少年B種目は中体連と協力し、月1度の強化練習会を1月から始めています。

カウントダウンで三重国体が迫ってくる中、更にホップステッブジャンプ出来るよう頑張っていきたいと思えます。今後のご理解とご協力よろしくお願い致します。



高校生のスポーツの祭典・全国高校総体が無事に終了できました

ことを嬉しく思います。

音響映像等専門業者を入れずに、全てを陸協役員及び高校生補助員で賄えました事を誇りに思います。また、三重陸協目線で競技場設備等を更新いただいた三重県に改めて感謝申しあげたいと思います。全日本中学・国体と控えています。最新鋭の機材で選手観客が一体となり好記録が出る環境を構築して参りたいと考えております。

ご協力の程お願い申し上げます。



本年度も普及委員会の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

普及委員会としては、「強化委員会との連携重視」「地区における普及活動の推進」「指導者の育成」の三点を重点目標に掲げ取り組みを進めてきました。

中でも県内の小学校を訪問し、授業の一環として実施した「キッズアスリートin陸上教室」では、皇學館大学陸上競技部の学生にアシスタントとして、デモンストラクションや児童の指導にあたり

ただではなく、次世代の指導者に向けての動機付けにもつながった

と思われず。

11月には三重交通スポーツの杜伊勢陸上競技場にて、「三重県小学生クラブチーム指導者研修会」を開催しました。県内の小学生クラブチーム指導者を中心に県内から約70名が参加し、「小学生への運動指導について」、「クラブチームと学校（小学校・中学校・高校）の連携について」、「発達段階を考えた具体的な指導方法及び競技会のあり方について」を熱心に学び、意見を交流し、どこの地区においても、どこのクラブチームにおいても、基本的には同じ考え方のもとで子どもたちが活動できるように意思統一を図ることができました。

また、3月17日には、指導者を対象とした実技講習会の開催も予定していますので、多くの方に参加していただければと考えています。

来年度以降もたくさん子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切に、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後もご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。



10日

① 日本陸上競技連盟競技規則に従い、公式の競技会を開催し得る陸上競技場、および長距離走路ならびに競歩路の公認検定作業を行う。

② 競技場の施設が、「公認陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路規程」の各条項に基づき、競技の実施が可能かを確認し、もし不都合があれば管理者と折衝して整備の依頼をする。

③ 器具が規格に合致しているかを確認する。

④ 競技会では、トラック、助走路、サークル、円弧、角度、着地場所等が正しく整備されているかを確認し、得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。

⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務、関係部署と連携を図り協議を重ね、競技の円滑な進行を図る。

【競技場および長距離走路の公認終了期日】

(3) 三重交通Gスポーツの杜伊勢（投てき場）2021年4月10日

(4) 四日市中央緑地（陸）2種 2019年3月14日

(5) サルビア（10km）2019年3月14日

(6) 東員町スポーツ公園（陸）3種 廃止

(7) 付属長距離走路（10km）廃止

(8) AGF鈴鹿陸上競技場 3種 2023年3月30日

(9) 伊勢ハーフマラソン（ハーフ・10km）2020年5月31日

(10) メイハンフィールド陸上競技場 4種 2022年3月31日

が認められません。長距離走路の作成や、新規陸上競技場を設置する場合は技術委員会までご相談下さい。



本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度も、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、新競技場を使用した大会での活動で、年間13大会延べ25日間、現場でのトレーナー・救護活動を行ってまいりました。また、年間4回開催しましたスキルアップ講座には、多くのトレーナーが参加し、トレーニング・コンディショニング等の知識・技術の向上を図ってまいりました。

そのうち、今年度は全国高校総体が本県で開催され、大きな問題なく終了することができましたが、全国規模の大会の活動についての課題点等も多くあり、今後開催予定の全国大会には対応できるように、諸部署と連携を取りながら解決していきたいと思っております。

また、本年度も日本陸連より、より安全な熱中症対策の注意喚起と、秋以降大きな報道となつてきます選手の貧血症状に対して安易

※各地区でシテイマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でないと公認

ます

な薬剤の摂取について、今までの注意喚起よりもより強い警告と、来年度以降は使用に関して禁止する決定がありました。詳細につきましては、わかり次第会員の皆様方にもお知らせします。現在、陸上競技を指導する立場におられる皆様、特に対象となる年代以上の指導者の皆様は、貧血に関しての正しい知識を学んでいただき、安易なまたは勝利至上主義的な考えからの薬剤の使用は、後々選手の健康を損なうことにつながる可能性が多くあることをご承知いただきたく思います。選手は誰しも競技に一段落つけてからの人生の方が圧倒的に長く、その期間の健康まで奪う権利は誰にもないことをお忘れなきようお願いいたします。



に尽力して参りたいと思います。尚、来年度もトレーナー・ステーションは、競技場トレーニングルームに開設させていただき予定ですので、どうぞお気兼ねなくご利用下さい。スタッフ一同お待ちしております。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

2018年度 公認審判員数

審判種別	男	女	計
S級	42	2	44
A級	96	6	102
B級	323	105	428
合計	461	113	574

(2018年12月31日 日本陸連報告資料)

平成30年度全国高校総体を審判員の皆様のおかげで無事終了できました。この場をお借りして御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

2020年 8月18日(火)～8月20日(木) 全日本中学選手権

2021年 9月30日(木)～10月4日(月) 国民体育大会

それから、投擲物が当たる事故や校外での練習で交通事故等に遭うケースが、本年度も本県を含め起こっています。各指導者の皆様方は、常日頃から練習での安全面の徹底はされていると思います。ただ、選手は練習に没頭しますと危険の予見力が下がってしまうのも事実ですので、悲しい事故を防ぐためにも、より一層安全に對しての注意喚起をお願いします。

以上全国大会へ向けて、必要な競技役員を確保するためにみなさまのご協力をお願いします。特に学校の副顧問の先生に審判登録をしてもらってください。また、卒業生・地域のクラブチームの指導者などどんどん仲間を増やしてください。



来年度も今以上のスタッフのスキルアップを図り、選手の方々が安全で安心して臨める大会づくり

岡山全中において、男子110mHの山田真大さん(三雲中)が第2位、男子棒高跳の橋爪蒼葉さん(多気中)が第6位、女子砲丸投の西井琳音さん(五十鈴

審判員の資質向上にさらなる努力をお願いいたします。また審判配置の再考・運営準備等、全日本中学・国体バージョンにシフトチェンジしていきたいと思いま

中)が第6位と3種目3名の選手が入賞を果たしてくれました。また、山田真大さん(三雲中)は男子110mHにおいて13秒76の日本中学新記録を樹立してくれました。そして、男子110mHで藤田晃輝さん(皇學館中)、男子4×100mRで水谷公己さん・大川祥太さん・山田真大さん・廣瀬瑠星さん(三雲中)、男子4×200mRで水谷公己さん・大川祥太さん・山田真大さん・瀨古陸斗さん(三雲中)、女子棒高跳で高山華梨さん(小保中)、女子円盤投で西井琳音さん(五十鈴中)が三重県中学新記録を樹立してくれました。岐阜県で行われた東海中

16ジュニア研修東海ブロック合宿では、4県の強い選手が集まる中選抜された40名の選手はとても刺激になり、来年度の大阪全中に向けて意識も高まったようです。さて、2020年8月に開催される『三重全中』に向けて、強化活動を始めて2年が経とうとしています。『2020 MIE PRIDE』を合言葉に、おもてなし大会ではなく、地元三重の意地とプライドをかけて戦おうという強い思いを胸に、強化スタッフと顧問、選手が三位一体となって頑張っているところなんです。なお、今年度の中学1年生は、2020三重全中の年の3年生、そして翌年の2021三重国体少年B種目での活躍が期待されることとなり、(一財)三重陸上競技協会の全面的なご支援をいただき強化・育成を進めています。選手はもちろん指導者としても有意義で価値のある練習会であり、継続していくことで必ず結果につながると確信しています。

上の参加標準記録突破者を輩出 ④全個人種目で参加標準記録突破者を輩出 ⑤出場者数に対する15%の入賞率を上げる ⑥男女総得点30点以上の獲得 ⑦県別対抗順位10位以上の確保 ⑧全中入賞者10人以上の輩出 です。

これらの目標設定は簡単なものではありません。また、今までの三重県においてこれら全てを達成したことはありません。だからこそあえて高い目標を設定し、33年ぶりに三重県伊勢市で開催される三重全中において地元三重の選手たちが輝き、活躍することを願っています。

より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を発掘・育成していきたいと思っております。

今後とも三重県中体連陸上競技専門部へのご協力をお願いいたします。